

7 小中合同研修について

1 研究主題

自他の存在を大切にし、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成
～学びの連続性を意識した教育活動を通して～

2 研究の目的

1 小中一貫教育推進における課題

(1)小中一貫教育の必要性(合志市の教育目標から)

合志市では、全ての小・中学校で小中一貫教育を推進している。合志市の具体的実践事項の重点事項にも「中学校区における学びの連続性を活かした小中一貫教育の創造」が掲げられている。「志合せて夢実現プロジェクト」の中の「小学校が中学生に憧れをもつこと」や「小中一貫教育の柱として」という言葉が表すように、子どもが主体的に育っていくためにも小中一貫教育の推進は欠かせないものである。小学校から中学校への進学の際に新しい環境や学習等への戸惑いを感じ、不登校やいじめが起こる現象(中1ギャップ)は、どの学校でも課題となっている。今日的な課題から考えても、子どもが主体的に小・中学校と繋がりを持って自ら学びを進めていくための小中一貫教育の研究が求められている。また、小中一貫教育を推進することは、少子化や核家族の進行する中で多様な他者との関わりを増やすことにも繋がる。多様な他者との関わりは、児童生徒の自尊感情を高め、夢に向かって取り組むことができる人材の育成に大きく関わると言える。

(2)昨年度の取組から

開校から間もなく、同じ敷地内に小・中学校があるというだけでは、小中一貫教育が思うように進んでいかないことを痛感した。小学校と中学校では、物理的な時間の流れや学習内容、様々な組織体制や取り組み方が大きく異なっていた。また、発達段階によって、教職員が思い描く学習指導や生徒指導の方法が大きく異なっている。そのため、「小学校だから」「中学校だから」という考え方の違いを感じる場面があり、小学校と中学校の学校文化の相違に戸惑う教職員も多かった。そこで昨年度までは、「カリキュラムマネジメント・ハンドブック」(田村知子/2016)を参考に、「組織構造」と「学校文化」に着目し、違いがあることを前提とした小中一貫教育推進のための土台づくりに力を注いだ。その結果、共通の組織構造の設定の有効性が分かり、少しずつ小・中学校あわせた新たな学校文化の醸成が進んできた。共通実践も進み始めたが、田村が述べる『一人一人の教師が学校としての目標やカリキュラムを十分に理解し納得した上で、主体的・自律的に実践に取り組めるようにマネジメントする¹⁾』ところまでは至っておらず、単に小・中学校で共通実践を行うのではなく、その必要性を実感しながら実践に移していくことの必要性が明らかになった。

2 研究の目的

今年度の小学校の教育目標は「夢を持ち 自分で考え よりよく行動できる子どもの育成」、中学校の教育目標は「夢と誇りを持ち、自分らしく主体的に考えて行動生徒の育成」である。どちらの教育目標も主体的に考えて行動できる児童生徒の育成を目指すという点で繋がりを持っているため、中学校区の教育目標を「自他の存在を大切にし、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成～学びの連続性を意識した教育活動を通して～」と設定した。単に共通実践を行うにとどまらず、真の小中一貫教育の推進には何が必要なのかを模索すべく、教職員や児童生徒が教育目標を理解し納得した上で「学びの連続性」に着目して実践していくことを目指す。

3 研究の仮説

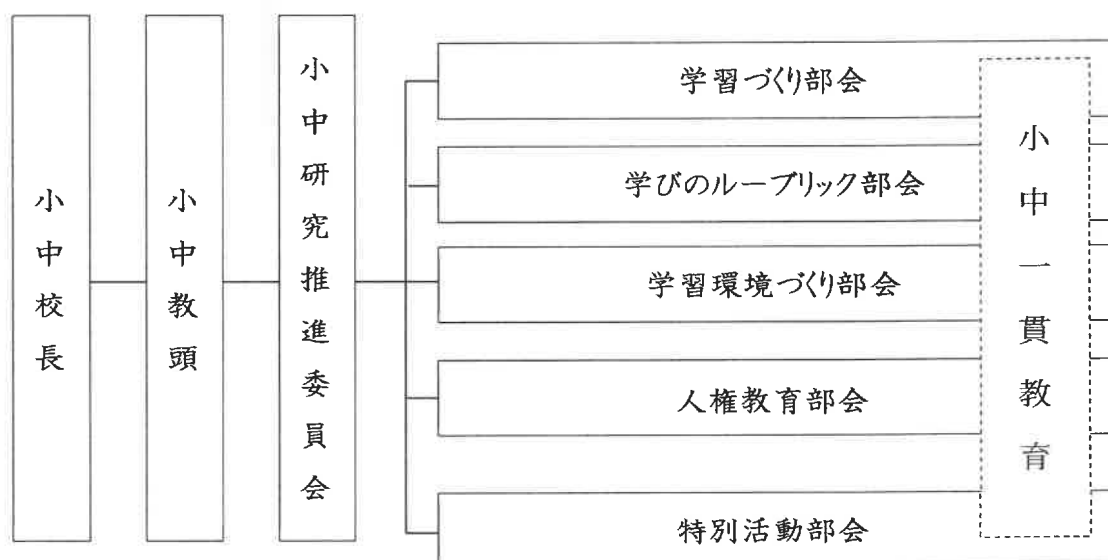
(1) 研究の仮説

仮説1 共通組織構造の実施および学校文化の醸成
共通化された小・中学校のカギになる「組織構造」を実施し児童生徒同士が交流したり協働したりする場面や多様な教職員との関わる機会を実施し、教員同士がお互いのズレを理解し、良さに気づき、協力しながら9年間の学びの連続性を意識して児童生徒をみんなで育てていこうというあたたかい「学校文化」の醸成を図ることで、自他の存在を大切にし、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成ができるであろう。
仮説2 3つの力を意識した授業づくり
仮説1(小中一貫教育推進の大切な土台となる両軸)を同時進行で行いながら、学びのルーブリック(児童生徒に身に付けさせたい資質・能力)を意識し、9年間の学びの連続性を意識した授業づくりを行うことで、自他の存在を大切にし、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成ができるであろう。
仮説3 3つの力を意識した共通実践事項の実施
昨年度作成した学びのルーブリックを小・中学校教職員と児童生徒が共有し、9年間の学びの連続性を意識し学習環境を整え、特別活動、人権教育などの教育活動で実践・改善を繰り返していくことで、自他の存在を大切にし、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成ができるであろう。

(2) 育てたい子どもの姿・キーワード

○やりぬく力 ○伝える力 ○協働する力

4 研究組織



5 研究の視点・取組の内容

中部会	具体的な取り組み内容
授業づくり	・確かな学力(教科の本質+3つの力)を身に付けさせるための授業づくりの推進 ・小中合同の教科部会の運営 ・構想案の検討
学びのルーブリック	・学びのルーブリック(やりぬく力、伝える力、協働する力)の作成や浸透の手立て(後半:研究発表企画部会)
学習環境づくり	・声のものさし、5つの心得の徹底

	・めあて、まとめカード (後半:研究発表企画部会)
人権教育	・自他を大切にする活動の提案 ・たてわり人権集会の運営
特別活動	・3つの力の育成の取組 ・小中合同での委員会活動の実施、話し合いの進め方、縦割り活動

6 研究の構想図



7 年間計画

回	月	日	曜	担当	研究	研修
1	4	12	水	研究部	今年度の方向性、部会分け[15:40~16:20]	
4月18日(火)*日程調整必要						
2	4	26	水	部会リーダー —	●5つの部会①(顔合わせ、共通実践検討)[15:00~]	

				授業づくり 部会	◆小中合同委員会部会①[~16:20]	
3	5	24	水	研究、 部会	共通実践共有[15:40~16:20]	
4	5	31	水	保険部		心肺蘇生の講話・演習 (予定)
5	6	7	水	授業づくり 部会	★教科部会①②(全体説明+単元配列表作成)[15:00~16:20]	
6月12(月)~23(金)				集計・分析 部会		
6	6	21	水	部会リーダ ー	●5つの部会②[15:40~16:20]	
7	6	28	水	人権教 育部		菊池恵楓園 園長講話 (予 定)
8	7	5	水	研究部	◎大研 (提案授業) ←ステップアップ研修も兼ねる	
9	7	19	水	特別活動部 会	◆教科部会③ (単元配列表練り上げ)	
7月20日(木) 前期・前半終了 ~夏休み~						
10	7	21	金	授業づくり 部会	★教科部会④⑤(単元配列表仕上げ)[午前中]	
				授業づくり 部会	●5つの部会③	特別支援 講師招聘 *要 相談
★	8	18	金	人権教 育部		午前：夏期講座(合志市学校教育部 会実践レポート研究会)
						午後：共通教材学習(学年別分科 会)
8月24日(木) *要相談						
8月28日(月) 前期・後半スタート						
11	8	30	水	研究部	アンケート結果共有、今後の方向性	
12	9	6	水	授業づくり 部会	★教科部会⑥ (学習構想案練り上げ)	
13	9	20	水	研究部	◎中研 (小学校の先生方)	
14	9	27	水	研究部	みんなでビジョンを出し合おう会	
15	10	4	水	特別活動部 会	◆小中合同委員会部会② (ビジョンを意識) [15:40~16:20]	

16	10	25	水	研究部	全体でビジョンを共有しよう会	
					● 5 つの部会④[15:40~16:20]	
17	11	1	水	授業づくり 部会	★教科部会⑦(学習構想案練り上げ)【中学校のみ】	
★	11	15	水	人権教 育部		人権公開授業研
18	11	22	水	研究部	◎中研(中学校の先生方)	
19	11	29	水	部会リーダー ー	各部会ごと実践のまとめ(論文作成に向けて)+発表に向けての作戦会議 [15:40~16:20]	
20	12	6	水	部会リーダー ー	アンケート結果共有+部会ごと実践のまとめ+発表に向けての作戦会議 [15:40~16:20]	
21	12	20	水	特別活動部 会	◎大研	
12月22日(金)後期・前半終了 / 1月9日(火)後期・後半スタート						
22	1	17	水	研究部	今後の方向性、部会の進捗状況共有[15:40~16:20]	
23	1	31	水	研究部	◆小中合同委員会部会③(発表に向けて)[15:40~16:20]	
24	2	7	水	研究部	県学調の結果分析・共有	
★	2	21	水	人権教 育部		レポート研(学年)
★	2	28	水	人権教 育部		レポート研(全体)
25	3	6	水	研究部	初任者実践報告会(校内)[15:00~16:20]	
26	3	18	月	研究部	今年度の取組の成果と課題及び来年度の志向	
				部会リーダー ー		